

年のはじめに



新しい年の始まりは、誰にとっても物ごとの取り組みへの新たな期待と共に、挑戦への意欲を高めてくれます。それだけに、今年はどうな自分でありたいか、そのためにどのような役割を果たすべきかを自分自身でしっかりと意識することが大切です。「わからなかったことが理解できてよかった」という自らの活動の成果を実感するためには、目標をもち、その実現に向けて力一杯取り組む過程が大きくかかります。

私たちが人間は、目標があることで努力をし、努力したことで成果を期待するものです。目標を設定することなく漠然と努力しているのでは、やる気も高まりません。そこで、自分自身で目標を設定することで、困難を乗り越えて頑張ろうという強い意志をもつことができるのです。とは言え、努力すれば必ず望んだ結果を手にする訳ではありません。

しかし、目標に向かって努力することや諦めずに取り組んだ満足感は、目に見える結果以上に本人にとってやりがいをもたらしてくれます。その意味で、目標が達成できることに越したことはありませんが、好ましい結果が得られないことで努



新年の抱負を発表（代表児童）



白田陸斗さん(1年), 大森陽菜さん(2年), 田村結生さん(3年)



大森菜穂さん(4年), 長谷川絢人さん(5年), 秋元大和さん(6年)

力のすべてが無駄になるとは言い切れません。目標に向けて、自らの力を注ぐことで充実感や自信をはじめ、次への挑戦につながる意欲を手にするのです。このように目標をもつことには、大きな意味があります。

学ぶことは、まねることと言われますように、学ぶ環境にお手本となる存在は、欠かせません。目指す姿が見えることで、学びが実現するとも言えます。それだけに、身近な存在である大人は、良きお手本としての役割が求められます。教育は、共育であり、鏡育でもあります。そこにあって、子どもは大人の鏡であるとも言われます。新年を迎え、私たちが親として、教師として鏡たる子どもの目指す姿であることを意識し、目標をもって前向きに取り組む生き様を示すことで、その役割を果たしていきたいと考えます。

SDGs(持続可能な開発目標)

新聞やテレビの中でよく聞くようになったSDGs(エスディーゼーズ)という言葉。日本でもほぼ3人に1人が「聞いたことがある」と答えるなど、その認知度も次第に上がってきています。今回、あらためてSDGsについてお話ししたいと思います。

SDGs (Sustainable Development Goals) (持続可能な開発目標)

とは、“2030年までに達成すべき17の目標” 2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



17の目標と日本の現状

2030年までに達成すべき17の目標

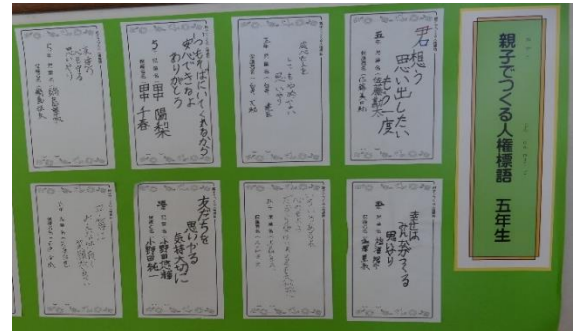
1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロ
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナーシップで目標を達成しよう

1～6の目標を見ていると、貧困や飢餓、健康や教育、さらには安全な水など開発途上国に対する支援に見えます。しかし実際には、日本の子どもの6人から7人に1人が貧困だと言われていたり、ジェンダー平等に関しても2019年12月に世界経済フォーラムで発表された数字によると153カ国のうち120位と、とても低い数字になっていて、これらの目標は先進国である日本国内でも当てはまることだと言えます。

小学校のSDGsへの取り組み

日々の教育活動において、SDGsへの取り組みを行っています。

- ・校内人権週間の設定、人権に関するビデオの視聴、人権標語作成による人権に関する意識を高める教育の実施
 - ・給食だよりや食に関する掲示物をとおしての食育の実施
 - ・町環境課職員を外部講師に招き、再生資源について（ゴミと再生資源の分別）についての授業の実施
- また、社会や理科の各教科においても(目標6)水質汚染、



(目標12)ごみ問題・大気汚染、(目標13)地球温暖化、(目標14)海洋汚染、(目標15)森林伐採などの諸問題について問題を設定して現状を調べるとともに、その問題を解決するための人と環境との関わり方の工夫について追究する活動を行っています。

さらに、NAiSU体験では(目標11)地震や台風、大雨及び火山の噴火による被害について調べる活動をとおして、環境から人の生活へ及ぼす影響を学ぶとともに、災害等から身を守る方法の学習も進めています。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の活動について

26	学校運営協議会の活動内容について知っている。	22	38	36	4	8月
		21	35	32	13	12月

本校のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）には学校支援委員会が設置されており、学習、図書、安全、環境整備、運動の5領域において、ボランティアを募り子どもたちの活動を支援してもらっています。また、評価部と広報部が設置されています。昨年の8月と12月に皆さんに御協力いただいた保護者アンケートは、評価部が中心となり本校の教育活動を充実させていくために実施したものです。アンケートの結果を学校運営協議会で熟議を行いさらなる充実のために活用していきます。

農園活動は学習ボランティアと環境整備ボランティアの協力により進められています。今年度収穫できた、米や里芋、サツマ芋は給食に出してもらい全校生で食べたり、児童一人一人が自宅に持ち帰り各家庭で食べられるようにしたりしました。

さらに、図書ボランティアの皆さんには、書架の整理だけでなく、季節毎の図書室の装飾等を行っていただいています。

